

「母の日に関する意識と実態調査」

母の日にしてほしいことは、「なにもしてもらわなくてもいい」が最多。

一方、全体の約7割が母の日にか何かをしてもらっている。

母の日の贈りものにかけた平均金額は、実母が8,402円、義母が5,690円。

女性誌販売部数 No.1 (※1) の「ハルメク」をグループで発行する(株)ハルメクホールディングス(本社：東京都新宿区、代表取締役社長：宮澤 孝夫)のハルメク 生きかた上手研究所は、50～79歳の女性433名を対象に「母の日に関する意識と実態調査」をWEBアンケートにて実施いたしました。

(※1) 日本 ABC 協会発行社レポート(2022年1月～6月)

【 調査サマリ 】

■全体の約7割が、母の日にか何かをしてもらっている。娘がいる人のうち、母の日にか何かしてもらった人は75.8%、

一方、息子がいる人のうち母の日にか何かしてもらった人は61.5%。

⇒全体の69.7%が、母の日にか何かをしてもらっている。娘がいる人(256人)のうち、母の日にか何かしてもらった人は75.8%。一方、息子がいる人(296人)の場合は61.5%。娘がいる場合の方が14.3ポイント高かった。

⇒婚姻別にみると、既婚の娘からは76.3%、未婚の娘からは70.5%、既婚の息子からは63.7%、未婚の息子からは49.1%と、娘息子のいずれも既婚の子がいる人の方が、母の日にか何かをしてもらっている割合が高かった。

■昨年の母の日にか子からしてもらったことは、「贈りもの」が最多で84.8%。一方、母の日にしてほしいことを尋ねたところ、「特になにもしてもらわなくてもいい」が最多で35.9%だった。

⇒贈りもの内容は、1位が「生花」、2位が「スイーツ・お菓子」、3位が「手紙・メッセージカード」。

⇒一方、母の日にしてほしいことを尋ねたところ、「特になにもしてもらわなくてもいい」が最多で35.9%、続いて「自宅で食事など、一緒に過ごしたい」が29.5%。「一緒に外出を楽しみたい」が27.6%だった。

■昨年の母の日にか何かをした人は全体の約45%。母の日の贈りものにかけた平均金額は、実母が8,402円、義母が5,690円だった。

⇒実母には「贈りもの」だけでなく「感謝の気持ちを伝えた」「一緒に外食をした」「一緒に過ごした」「電話で話した」など濃密なコミュニケーションをしている様子が伺えた。一方、義母には「贈りものをおくった」が目立ち、88.4%だった。

【調査背景】

女性誌販売部数 No.1 の「ハルメク」は、長年シニアのインサイトについて調査・分析を行ってまいりました。もらう側、贈る側もひと通り経験をしてきたシニア女性が、母の日をどう捉えているか、リアルな実態を把握すべく、「母の日に関する意識と実態調査」を実施しました。

※調査主体の(株)ハルメクホールディングス 生きかた上手研究所 所長への取材、コメント提供も可能です。

【調査概要】

調査の方法：WEB アンケート

調査の対象：50～79歳の男女

有効回答数：女性433名

調査実施日：2023年3月28日～3月30日

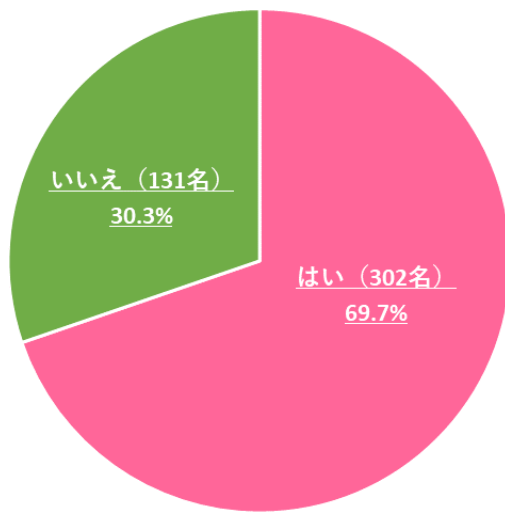
調査主体：(株)ハルメクホールディングス 生きかた上手研究所

※本リリース内容を掲載いただく際は、出典「ハルメク 生きかた上手研究所調べ」と明記をお願いいたします。

**娘がいる人のうち、母の日に何かしてもらった人は 75.8%、
一方、息子がいる人のうち母の日に何かしてもらった人は 61.5%。**

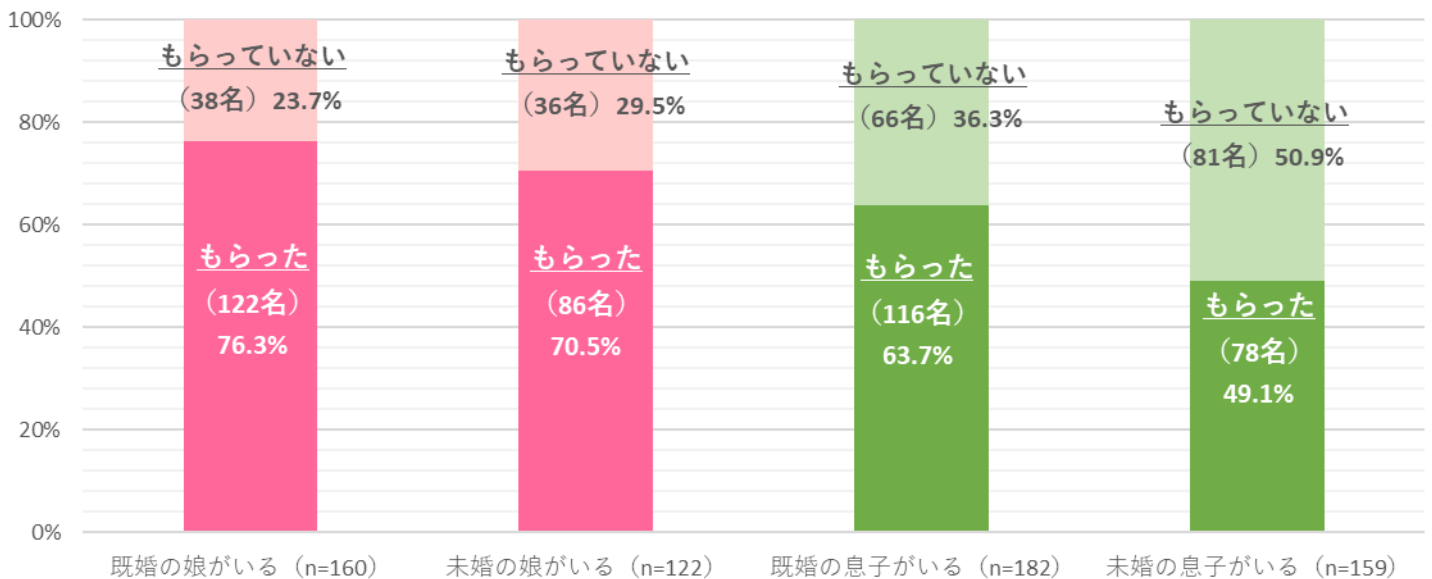
- ・全体の 69.7%が、母の日に何かをしてもらっている。娘がいる人（256 人）のうち、母の日に何かしてもらった人は 75.8%。一方、息子がいる人（296 人）の場合は 61.5%。娘がいる場合の方が 14.3 ポイント高かった。
- ・母の日に何かしてもらったかどうかを子の婚姻別にみると、既婚の娘からは 76.3%、未婚の娘からは 70.5%、既婚の息子からは 63.7%、未婚の息子からは 49.1%と、娘息子がいる場合のいずれも「既婚の子」から何かしてもらった割合が高かった。

**■ 昨年の母の日に、何かしてもらいましたか？
50～79 歳の女性（単一回答）：433 名**



子から : 283 名
子以外から : 115 名
※複数もらっている場合を含む

**■ 子の性別×子の婚姻別に見た割合
「子がいる」と回答した女性：370 名**



※子がいる女性は 370 名

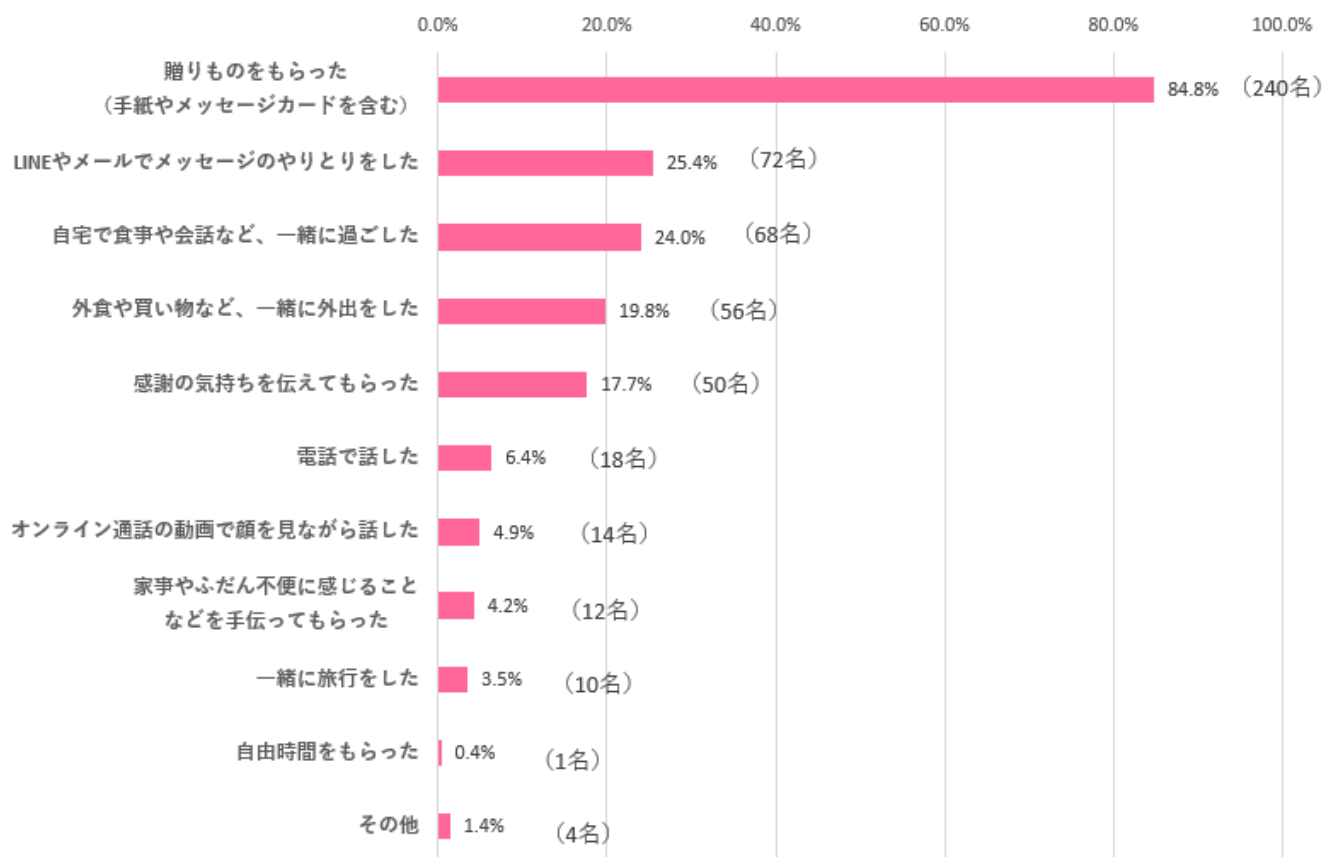
※複数の子がいる場合があるため、棒グラフの n 数の総和は 370 名以上となる。

母の日に子からしてもらったことは、「贈りもの」が最多で84.8%。

- ・ 昨年の母の日に子からしてもらったことは、「贈りもの」がダントツ首位で全体の84.8%。その他、「LINEやメールのやりとり」「自宅で食事や会話」「外食や買い物と一緒に外出」と続いた。
- ・ 贈りものの内容は、1位「生花」(42.1%)、2位「お菓子・スイーツ」(40.8%) 3位「手紙・メッセージカード」(23.3%) だった。

■ 昨年の母の日に子からしてもらったこと

「子から母の日に何かをしてもらった」と回答した女性（複数回答）：283名



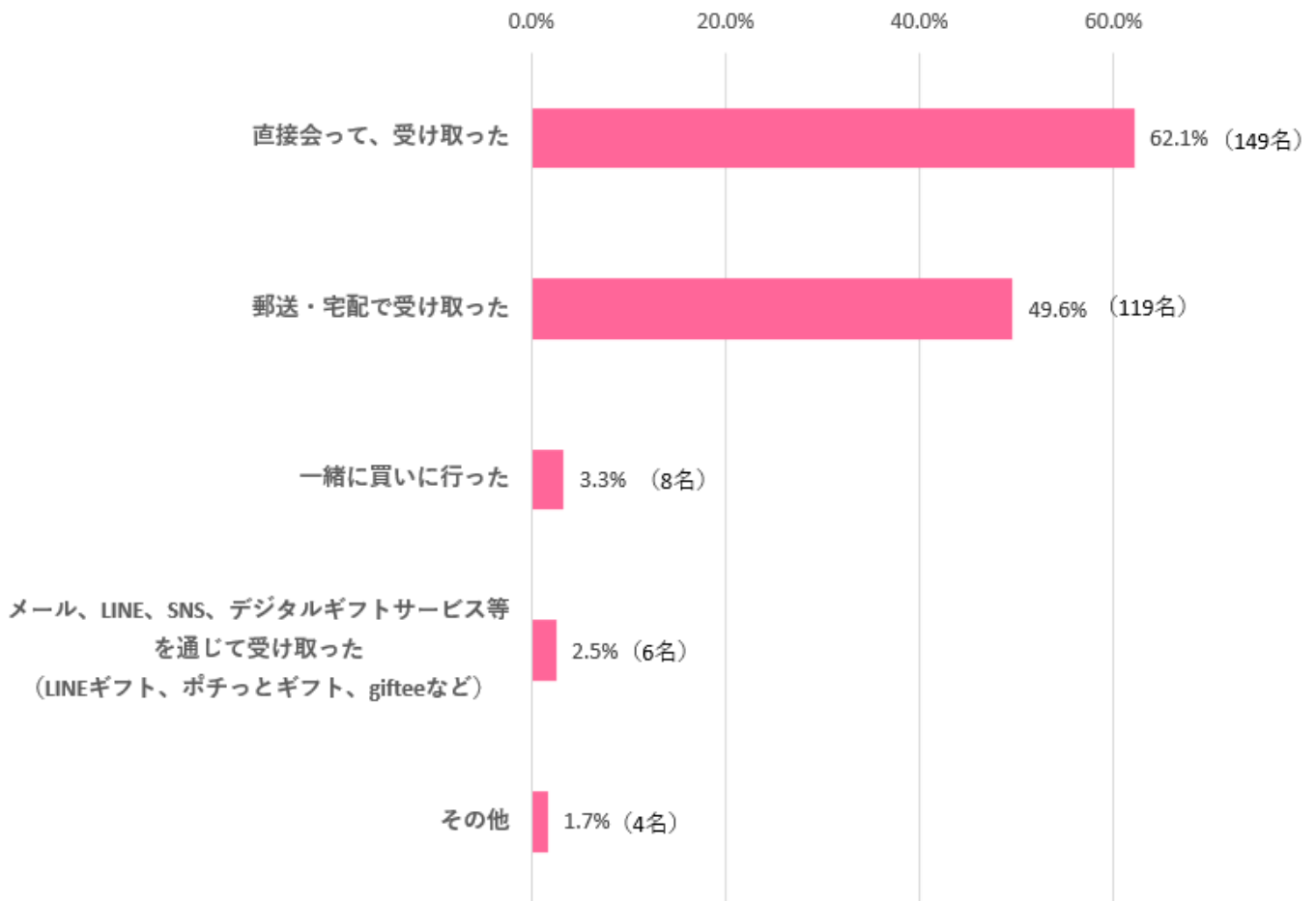
■「贈りもの」のランキング

「子から母の日に贈りものをもらった」と回答した女性（複数回答）：240名

	%	n
1位 生花	42.1%	101
2位 お菓子・スイーツ	40.8%	98
3位 手紙やメッセージカード	23.3%	56
4位 食品	17.1%	41
5位 美容グッズ（メイク用品、ヘアケア用品など）	10.4%	25
6位 服飾品（鞆、財布、アクセサリーなど）	10.0%	24
7位 造花	4.6%	11
8位 現金・商品券	3.8%	9
9位 健康グッズ・健康家電	3.3%	8
10位 趣味に関するグッズ	3.3%	8
- その他	14.6%	35

■母の日の贈りものの受け取り方法

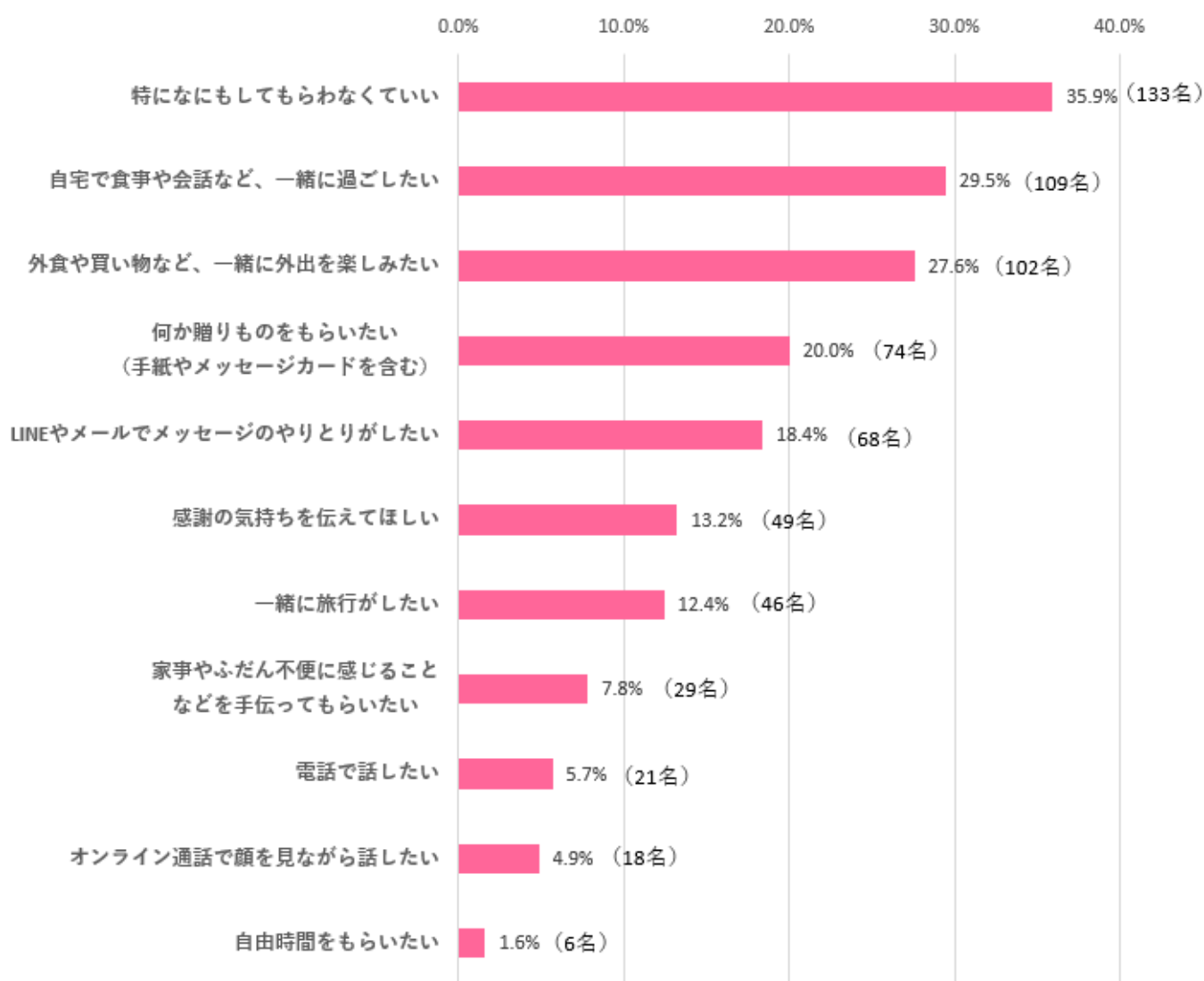
「子から母の日に贈りものをもらった」と回答した女性（複数回答）：240名



**母の日にしてほしいことは「特になにもしてもらわなくてもいい」が最多で約36%、
「自宅で食事など一緒に過ごしたい」が29.5%。「一緒に外出を楽しみたい」が27.6%。**

- ・母の日にしてほしいことを尋ねたところ、「特になにもしてもらわなくてもいい」が最多で35.9%、続いて「自宅で食事など、一緒に過ごしたい」が29.5%。「一緒に外出を楽しみたい」が27.6%と、一緒にできることを望む声が多い結果となった。
- ・欲しいものの自由記述では、「スポーツウェア」「アイドルのグッズ」など趣味のものや「体重計」「シャワーヘッド」などの生活用品が多く挙げた一方で、「一緒に時間」「相談にのって欲しい」など、モノ以外のリクエストも多かった。
- ・また、「子から「お困りごと」をサポートしてもらえるとしたら何をお願いしたいか」と尋ねると、「スマホの使い方」「自由な時間」「家の手入れ」などの意見が目立った。

**■今年の母の日に、子からしてほしいこと
「子がいる」と回答した女性（複数回答）：370名**



■具体的に欲しいと思っているもの 抜粋

「子がいる」と回答した女性（自由記述）：370名

モノ	園芸やスポーツが趣味なので、おしゃれな植木鉢やスポーツタオル	60代
	ジムに通い出したので、スポーツウェアやシューズ。髪に良いコーム	60代
	好きなアイドルの本やグッズ	60代
	毎年子どもたちから一緒に贈り物をもらってます。私がリクエストするのですが今年はいろんな機能付きの体重計が欲しいです。	60代
	節水できるシャワーヘッド	70代
トキ・コト	特に欲しい物はない それより、一緒に時間が欲しい	60代
	時間あれば、一緒に旅行、または、ホテルでアフタヌーンティーをする。	70代
	物ではなく困った時に相談にのって欲しいです。	70代
欲しいものは無い	特に欲しい物はない。とにかく、健康で幸せであればそれに勝るプレゼントはない。	50代
	この歳になると物は要らない。整理しているくらいですから。	70代

■子からどんな「お困りごとサポート」をしてもらいたいのか 抜粋

「子がいる」と回答した女性（自由記述）：370名

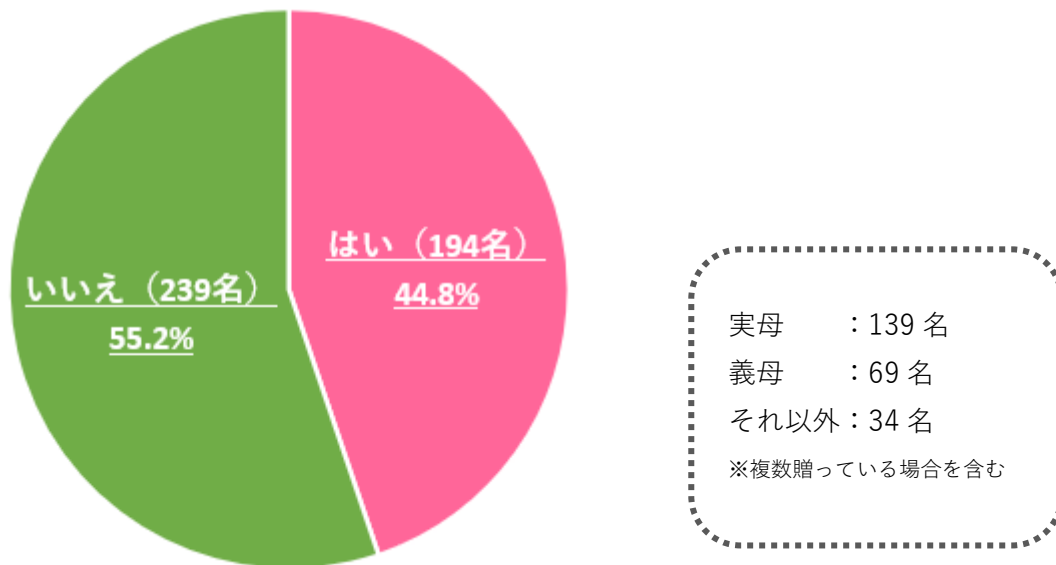
スマホやPCの使い方	スマートホンで撮った写真や動画の整理の方法を教えてください	60代
	スマホやパソコンの使い方に関して、日頃不安ながらも聞けないことを教えてほしい。スマホでゲームもやってみたいので。	70代
	スマホの買い替え。新しいスマホにする時のデータの保存とか移行とかをして欲しい。写真のデータの整理。ビデオテープをCDにして欲しい。	60代
	フェイスブックやTwitterについて詳しく教えて貰いたい。	60代
家事や家の手入れ	1日でも半日でもいいから、家事を代わってほしい	50代
	洗濯掃除買い物などの家事をして欲しい。私は一日中ゴロゴロしていて 近所の温泉の出る銭湯に行き1日を締めくりたい。	50代
	夫の世話をして欲しい	60代
	電気コードをきれいにまとめる、ベランダの排水溝掃除、床のワックスがけ、タンスの裏の掃除	60代
	天井についている蛍光灯のとりかえとか天井の壁紙の張替えとか、家事で気になりつつも自分ではできないこと。	70代
若い世代の流行り	新しい言葉を教えて欲しい。	50代
	ファッションや、スマホの操作など、流行りの情報を教えて欲しい。	60代
	若い人が作る料理のレシピ	70代

**昨年の母の日に何かをした人は全体の約 45%。
母の日の贈りものにかけた平均金額は、実母が 8,402 円、義母が 5,690 円**

- ・ 昨年の母の日に、誰かに何かをしたという人は全体の 44.8%だった。
- ・ 実母には「贈りもの」だけでなく「感謝の気持ちを伝えた」「一緒に外食をした」「一緒に過ごした」「電話で話した」など濃密なコミュニケーションをしている様子が伺えた。一方、義母には「贈りものをおくった」が目立ち、88.4%だった。
- ・ 母の日に「贈りもの」をした人が贈りものにかけた平均金額は、実母への贈りものが 8,402 円、義母への贈りものが 5,690 円と、贈りものにかける費用には差が出る結果となった。

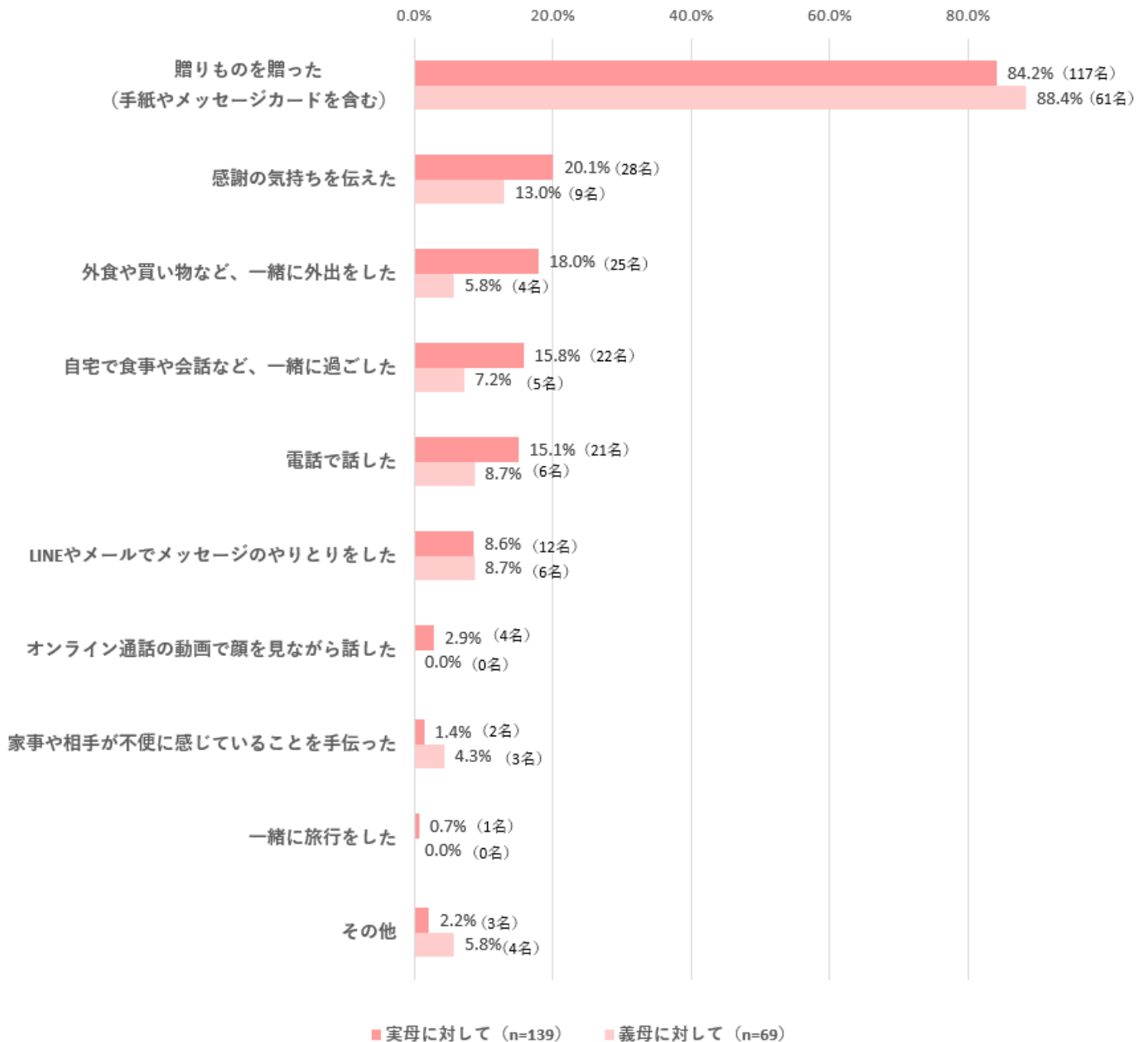
■昨年の母の日に誰かに何かをしたか (※実母・義母以外も含む)

全体 (単一回答) : 433 名



■ 昨年の母の日、誰にどんなことをしたか

「昨年の母の日に何かをした」と回答した人（複数回答）：194名



■ 「贈りもの」にかけた平均金額

贈りものを実母にした人：117名、贈りものを義母にした人：61名

	平均金額	最小値	最大値	中央値
実母への贈りもの	8,402円	1,500円	80,000円	5,000円
義母への贈りもの	5,690円	100円	15,000円	5,000円

※注：小数点1桁以下を四捨五入

【附録】

子との普段のコミュニケーション手段は「LINE やメール」が最多で 87.4%。
一方、母とのコミュニケーション手段は「直接会う」が最も多く、65.6%。

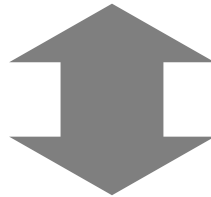
- ・ 離れて暮らす子世代との普段のコミュニケーションは「LINE やメールなど文字や写真でのやりとり」というデジタルを活用した手段が最多で 87.4%。続いて「直接会う」が 71.7%、「電話で話す」が 54.4%となった。
- ・ 一方、母とのコミュニケーション手段は、「直接会う」が最も多く、65.6%だった。次に「電話で話す」が多く 57.0%と続いた。
- ・ 母世代と「LINE やメールなど文字や写真でのやりとり」をする割合は 24.7%という結果に。

■離れて暮らす「子」、 「母」 との直近半年のコミュニケーション手段

別居の子 （総数：605名（※1））

	LINEやメール	直接会う	電話で話す	スカイプやビデオ通話	手紙・ハガキ	その他	コミュニケーションはほとんどない
n	529	434	329	102	22	13	14
%	87.4%	71.7%	54.4%	16.9%	3.6%	2.1%	2.3%

（※1）既婚の娘209名 + 未婚の娘70名 + 既婚の息子225名 + 未婚の息子101名の総和



別居の母 （総数：279名（※2））

	LINEやメール	直接会う	電話で話す	スカイプやビデオ通話	手紙・ハガキ	その他	コミュニケーションはほとんどない
n	69	183	159	22	23	11	34
%	24.7%	65.6%	57.0%	7.9%	8.2%	3.9%	12.2%

（※2）実母171名 + 義母108名の総和

【専門家の見解】

ハルメク 生きかた上手研究所 所長 梅津 順江（うめづ ゆきえ）

2016年3月から現職。主に年間約900人の50歳以上のシニア女性を対象に8インタビューや取材、ワークショップを実施



母の日は、「GIVE（あげる喜び）」と「TAKE（もらう喜び）」との両方を享受

贈る側でももらう側でもある50～70代女性。まず贈る側の立場としては、「子供の頃から贈っているけどいつも新鮮に喜んでくれる」「産んで良かった～と言われた」「贈ったメッセージが飾ってあった」「料理を作って一緒に楽しく食べた」「箸をプレゼントしたらすぐに使ってくれた」など、母が喜んでくれたエピソードや忘れられない思い出でフリーコメントが溢れました。今でも年老いた実母には、直接会ったり、平均8,400円分のギフトを渡したりして、感謝の気持ちを伝えている様子が伺えます。

続いて、子供たちにももらう方の話。母の日にしてほしいことは「特に何もしてもらわなくていい」と言いつつ、サプライズには感動していました。「子育てで忙しいだろうに娘からミニバラとハンドクリームのセットが宅配便で届いた。気遣いが嬉しかった」「お嫁さんから●●さんを産んでくださってありがとうございますというメッセージが届いた。嬉しくて今も大切にとってある」「何の連絡もなく息子が急にフラッと花束とケーキを持ってきた。わざわざ来てくれたことが嬉しかった」など。「してほしいこと」に書かれていたホンネにもクスッと笑えます。「スマホやパソコンの使い方を教えてほしい」「夫のいない自由な時間がほしい」という記述が目立ちました。

GIVEとTAKE両方の喜びを享受する50～70代女性は、「母の日」は家族の中心（主役）であり、コミュニケーションの要です。そんな主人公（当該女性）は、コミュニケーション手段さえも使い分けていました。親世代とは「直接会う」、子世代とは「LINEやメール」が最多でした。なんて器用なのでしょう。子世代からの受け取り方法には、「LINEギフト」など新たなあり方も垣間みられました。まだ2.5%ではありますが、新たな母の日ギフトの兆しではないでしょうか。ますます、非接触コミュニケーションやギフトの受け渡し方法に関しては、進化していくことが予測されます。新しい手段も取り入れたり、しなやかに使い分けたりしながら、「母の日」を思う存分享受する、そんな一日にしたらよいのではないのでしょうか。

■女性誌部数 No.1！ 50代からの生きかた・暮らしかた応援雑誌「ハルメク」

50代からの女性が前向きに明るく生きるための価値ある情報をお届けしています。健康、料理、おしゃれ、お金、著名人のインタビューなど、幅広い情報が満載です。また、雑誌「ハルメク」の定期購読者には、本誌とともに提供するカタログと、オンラインでの通信販売を行っています。販売している商材は、ファッション・インナー・コスメ・美容・健康など多岐にわたり、独自のシンクタンクである「ハルメク 生きかた上手研究所」を通じて利用者の声を徹底的に調査、反映した商品開発で、多くの女性から支持を得ています。

■ハルメク 生きかた上手研究所のシニアリサーチデータは、「ハルメク シニアマーケティングLAB」で掲載しています。

「ハルメク シニアマーケティングLAB」は、ハルメク年代（シニア）を顧客とする企業にとって有益な情報をお届けしている情報サイトです。ハルメクグループが提供する定期購読誌や通販等を通じて得たマーケティングデータや記事、シンクタンク「ハルメク 生きかた上手研究所」の調査レポートなど豊富な情報が満載です。



【お問い合わせ先】

ハルメク PR 事務局 ((株)プラチナム内) 伊藤・平野・倉瀧
TEL: 03-5572-6072 / E-MAIL: halmek_pr@vectorinc.co.jp
(株)ハルメクホールディングス 広報室 入山・原
TEL: 03-6272-8222 E-MAIL: pr@halmek.co.jp